

(2019年 熊本県公立入試 類似)

- 長崎県公立入試 類似)

- (2026年 青森県公立入試 類似)

- (2018年 大分県公立入試 類似)

- (2020年 山形県公立入試 類似)

- (2019年 愛知県公立入試 類似)

- 岩手県公立入試 類似)

- (2018年 鳥取県公立入試 類似)

- (2020年 福岡県公立入試 類似)

- (2019年 愛媛県公立入試 類似)

- (2022年 鹿児島県公立入試 類似)

- 類似)

- (2016年 滋賀県公立入試 類似)

- いちごドリルプリント

答え合わせ・解説

問1	答え 3 促成栽培	温暖な気候を活かして他の地域よりも早く収穫・出荷する工夫です。宮崎平野や高知平野などで盛んに行われており、ピーマンやなすなどの夏野菜を冬から春にかけて供給する役割を担っています。これにより、他の産地との競合を避けることができます。
問2	答え 4 中国は日本の最大の貿易相手国であり、輸出額と輸入額の合計である貿易総額において極めて大きな割合を占めている。	2000年代後半以降、中国はアメリカを抜いて日本にとって最大の貿易相手国となりました。2014年のデータでは、中国への輸出額はオーストラリアの約8.9倍に達しており、輸入額も含めた貿易総額においても中国が圧倒的なシェアを占めています。オーストラリアは日本にとって重要な資源供給国ですが、人口規模や工業化の進展度の違いから、日本からの製品輸出額は中国に比べて限定的です。
問3	答え 4 在留外国人の割合	自動車工業などの製造業が盛んな北関東や東海地方の県では、労働力として日本に中長期的に滞在する外国人が多く居住しています。そのため、それらの県では総人口に占める在留外国人の割合が、全国の他の地域に比べて高くなる傾向があります。
問4	答え 4 地場産業	特定の地域に根ざし、その土地で得られる原材料や伝統的な技術を活用して発展した産業を指します。例えば、良質な水や米が得られる地域での酒造りや、良質な粘土が得られる地域での陶磁器製造などがこれに該当し、地域の経済や雇用を支える重要な役割を果たしています。
問5	答え 2 観光客を呼び寄せて地域内での消費を促すことで、減少する定住人口に代わって地域経済を支える一助とする。	人口減少や少子高齢化に悩む地域では、その場所に住み続ける「定住人口」が減ることで経済が衰退する課題を抱えています。そこで、観光などで一時的にその地を訪れる「交流人口」を増やすことが重要視されています。特産品の活用や情報発信を通じて観光客を呼び寄せ、地域で飲食や買い物をしてもらうことで、地元の産業を活発にする狙いがあります。
問6	答え 1 貿易摩擦の解消などを目的とした、海外での現地生産の拡大	1980年代、日本からの自動車輸出が急増したことでアメリカなどとの間で激しい貿易摩擦が起こりました。これを回避するために日本のメーカーは、輸出に頼るのではなく、現地に工場を建てて雇用を生む「現地生産」を加速させました。その結果、国内の工場で生産される台数は1990年を境に頭打ちとなり、統計上は横ばいから微減の傾向を示すようになりました。
問7	答え 3 団塊の世代	1980年の人口ピラミッドにおいて、30歳代前半の人口が膨らんでいるのは、戦後直後の第一次ベビーブームに生まれた「団塊の世代」がその年齢に達していたためです。この世代の成長や加齢に伴い、日本の人口構成のポリウムゾーンが移動し、社会保障制度や経済活動に大きな影響を与えてきました。
問8	答え 1 中国	1990年代後半から、日本の製造業は安価な労働力を求めて生産拠点を海外へ移転させました。特にこの国は「世界の工場」として急速な工業化を遂げ、スマートフォンやパソコンといった電気機器の日本への輸出が急増しました。その結果、2010年代には日本の電気機器輸入額の約半分を占める最大の相手国となりました。
問9	答え 1 鉄道やバスによる旅客輸送人数が非常に多い地域では、一世帯あたりの自家用車保有台数が少なくなる傾向がある	公共交通機関による輸送量が多い地域（特に関東や近畿）は、交通網の密度が高く、自家用車に依存しない生活が可能です。これに対し、公共交通網が十分に整備されていない地方部では、移動手段を自家用車に頼らざるを得ないため、一世帯あたりの保有台数が多くなるという対照的な構造になっています。
問10	答え 1 自動車が多く含まれるのが海上輸送、半導体などの電子部品が多く含まれるのが航空輸送	日本の輸出統計の特色を反映した問題です。海上輸送は、重量物である自動車や大型機械の輸送に適しており、統計上もこれらの品目が上位に並びます。対して航空輸送は、1個あたりの単価が高く軽量の製品の輸送に適しており、半導体などの電子部品や、精密機器などが主要な品目となります。記述された統計情報の割合は、それぞれの輸送特性を明確に示しています。
問11	答え 4 製品の価格に対して重量が比較的軽く、高い輸送コストをかけても採算が取りやすいため	航空輸送は船舶輸送に比べて運賃が高額になります。そのため、運賃を払っても利益が出るような「高価」かつ、一度に多く運べる「軽量」な品目が適しています。医薬品や電子部品（集積回路）などはこの条件に合致するため、成田国際空港のような空港での貿易における主要な品目となります。一方で、原油や自動車などの重量物は、コストを抑えるために船舶で輸送されるのが一般的です。
問12	答え 4 モータリゼーション	1960年代以降、日本各地で高速道路の建設が進み、トラックによる貨物輸送が急速に発達しました。自動車が社会の隅々まで普及する「モータリゼーション」が進展したことで、これまで貨物輸送の中核を担っていた船や鉄道は、機動力に優れた自動車にその座を譲ることとなりました。現在でも船は石油や鉄鋼などの重量物の輸送には使われていますが、輸送全体に占める割合はかつてほど高くありません。
問13	答え 4 中国からの輸入が急増した資源は鉄鉱石であり、国内の筑豊炭田から産出される石炭とともに製鉄の原料・燃料として利用された。	八幡製鉄所の操業開始に伴い、鉄鋼の主原料である鉄鉱石の輸入量は飛躍的に増加しました。当時の日本は国内での鉄鉱石産出量が限られていたため、地理的に近い中国からの供給が重要な役割を果たしました。統計上の1901年から1905年にかけての鉄鉱石輸入の急増は、まさに八幡製鉄所が本格的な生産体制に入った時期と一致しています。燃料については、地元九州の筑豊炭田から産出される石炭が活用され、原料と燃料の両面で有利な立地条件が整っていました。